

# 令和8年度第1回 松本若者ブレスト



## 実施報告書

開催日時：令和8年4月25日（土）14：30～16：00

開催場所：市長応接室

参加グループ：SKETT s エンジニア班 <sup>ふくろう</sup> 梟組（5名）

テーマ：若きデジタル猛者が活躍する松本

～ALL-Eyeを市内で運用するために～



# 懇談の要旨



## システムの開発と今後の運用について

- SKETT s エンジニア班の取組み  
SKETT s は秀峰中等教育学校の生徒会活動をサポートする有志団体（「助っ人」が語源）  
エンジニア班は、文化祭等の音響、ウェブサイト運営、その他デジタル面でのサポートをしている。
- 混雑状況把握システム「ALL-Eye」の開発  
生成AIを活用し、施設内の人数を検出し、「混んでいる」「やや混んでいる」「空いている」の3段階で混雑状況をリアルタイムウェブサイトで確認できるシステムを開発した。
- Mウイングでの実証実験について  
令和7年12月にMウイングの学習スペースで、システムの実証実験を行い、今後の課題を確認した。
- 公共の施設で運用する際の管理方法  
松本市内には自分たちと同年代の、プログラミングができた、AIツールを使いこなせる人が多くいると思う。  
学校の枠を超えて、同世代の学生とつながり、グループを作ることで、運用面のサポートをしていきたい。

## 市長の回答

- 松本市の施設への導入について  
Mウイングへの導入に向けて話を進めたい。
- システムの管理運用について  
学校間の横のつながりをつくれるよう、何かサポート、きっかけ作りができたらと思う。  
長野県内の公立の高等学校は、松本市が直接的に関わっているわけではないが、何らかのルートで呼びかけができるようにしたい。
- 期限を意識すること  
実現の実効性を高めるためには、期限を意識することが重要。  
Mウイングの利用者は、夏休みに多くなると思うので、夏休みまでを一旦の期限とするのはどうか。
- モメンタム（勢い）の重要性  
混雑状況を知りたいというニーズに応え、使ってみて便利だったと感じる人が増えると、それがメディアに取上げられるなどして、さらに注目が集まる。  
そういったモメンタム（勢い）が形成されると、自分も関わりたいと思う学生が出てくるはず。

# 市長に聞きたいこと1



## KURURUのデザイン

KURURU（交通系ICカード）の松本バージョンのデザインをつくってほしい。

## 市長の回答

最低1万枚からでないと言われている。松本バージョンのデザインをつくるかについては、ニーズがどのくらいあるかに応じて検討していきたい。

# 市長に聞きたいこと2



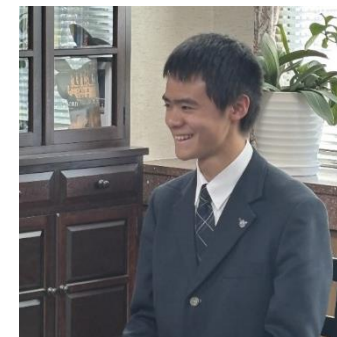
## 新しいことにチャレンジする時の補助

長野市では、新しい習い事やスポーツを始めると補助金がもらえる制度があると聞いた。  
松本市でも同じような補助金を出してほしい。

## 市長の回答

長野市の看板政策で、大盤振る舞いで予算化したと聞いている。  
松本市ですぐに同様の予算を組むことは単独では難しいと考えている。  
一方で、どのくらいの補助をしているかについては、総合的な視点で比較する必要がある。  
例えば松本市は、子どもの医療費の窓口負担をゼロにしたが、これはやっている自治体とやっていない自治体がある。

# 市長に聞きたいこと3



## コミュニケーションで大切なこと

コミュニケーションをするうえで、市長自身が大切にしていることを教えてほしい。

## 市長の回答

分からないことを分からないと素直に言うことを大切にしている。  
分からないことをそのままにして、曖昧な議論をすることは時間がもったいない。  
正直に分からないと伝えることは、信頼関係を構築するうえでも重要。

# 市長に聞きたいこと4



## 松本市内の体育館の数

バスケットボール部に所属しており、バスケットボールをするのにもっと体育館を増やしてほしいと感じている。

## 市長の回答

松本市と人口規模が同程度の15の中核市を調査した。その結果、松本市は15の都市の中で2番目に体育館の数が多いことが分かった。今後人口規模が縮小していく局面においては、既存の施設が将来的な負債になる可能性も考慮しなければならない。今ある小中学校の体育館も有効活用していきたい。

# 市長に聞きたいこと5



松本市内の自習スペース	市長の回答
<p>自習スペースを増やしてほしい。</p>	<p>Mウイングの自習スペースはこの4月からレイアウトを変え、窓際の席なども追加された。 具体的にどんな場所に、どのくらいのスペースがほしいといった具体的な要望を出してもらおうと、実現に向けた議論を進めやすくなる。</p>
外国人観光客に対する多言語案内	市長の回答
<p>外国人観光客の中には英語以外の言語を話す人もいます。案内の多言語化など、松本市が工夫していることがあれば教えてください。</p>	<p>松本城の通訳ガイドはボランティアで従事していただいている。 英語、中国語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語の5か国語に対応。 観光サイトやパンフレットの多言語化は進めているところだが、行政が気が付かないこともあると思うので、気になるところがあれば教えてください。</p>

# ご参加いただいた方からの感想

- ・ 市長と率直な意見交換ができ、貴重な経験になった。
- ・ 最初は緊張していたが、だんだん緊張がほぐれて話しやすかった。
- ・ 松本市のことについて市長からいろいろな話を聞くことができて良かった。
- ・ たくさん若者が活躍する世の中になってほしい。
- ・ 学校横断型のグループがつかれるように努力していきたい。
- ・ システムの運用面の課題について、対応策をどんどん出していきたい。

ご参加いただき、ありがとうございました！

